

20代女性向けのファッション雑誌における 日本語の特徴

—「助詞で終わる文」に注目して—

金 瑋 婷 劉 田 田

An Analysis of the Features of Japanese Used in Fashion Magazines Aimed at Women in Their 20s : Taking Sentences Ending with Particles as Example

JIN Weiting, LIU Tiantian

本文考察在面向20多岁女性的时尚杂志中做使用的日语的特征，主要着眼于以助词（除终助词外）结尾的句子。本文以同在2016年11月发行的两本时尚杂志为调查对象，并收集了其中以助词结尾的句子。本文将助词分为“格助词”“并列助词”“副助词”“系助词”“接续助词”这五大类进行了数据统计。结果显示，格助词“に”（39.3%），格助词“を”（8.8%），格助词“が”（7.4%），系助词“も”（10.0%），系助词“は”（7.8%），以及接续助词“て”（12.3%）为使用最多的6种助词。

本文结合实际例句，分别对这6个助词的用法以及特点进行了详细的分析，并得出以下结论。①以格助词“に”结尾的句子表达更为简洁。②以格助词“を”结尾的句子能够增加读者的想象空间。③以格助词“が”结尾的句子能简明地向读者提示未知的主体以及话题。④以系助词“も”结尾的句子起到强调话题内容的作用。⑤以系助词“は”结尾的句子能够简洁地提示话题。⑥接续助词“で”结尾的句子通过说明事项来吸引读者的视线，引起读者的兴趣。

0. はじめに

雑誌で使用されている言葉は雑誌の種類や対象とする読者層によってそれぞれ違い、日常に使われている言葉とも違うと考えられる。筆者らは20代女性向けのファッション雑誌を読んでいるうちに、途中で文を打ち切ってしまう現象が多いことに気づき、その日本語の文体に興味を持ってきた。そこで、本稿は、20代女性向けのファッション雑誌を取り上げ、ファッション雑誌の言葉の大きな特徴の一つだと考えられる「助詞で終わる文」に注目し、それが多用されている原因を探ることとする。

1. 先行研究及び研究目的

女性向けのファッション雑誌の言葉に関する研究として、具（2002）及び勝田（2011）が挙げられる。具（2002）は、女性雑誌でよく使われている終助詞「よ」「ね」、助動詞「～たい」「～う・よう」の用法を文法的意味によって分析した。また、勝田（2011）は、20代女性向けのファッション雑誌における外来語を対象として、「略語」「原形で標準語とは意味用法の異なるもの」「基礎的外来語とは見なせないもの」という三つの種類に分けて外来語の特徴を分析している。本稿は、「助詞で終わる文」に注目し、20代女性向けのファッション雑誌においては、文を最後まで言い切らない不完全文がどのように用いられているかを明らかにすることを目的とする。述語などが省略される不完全文に注目するのは、20代女性向けのファッション雑誌で多く見られるからだけではなく、その現象を取り上げて詳しく論じるものが少ないからである。このような不完全文が、若い女性向けのファッション雑誌に多用される理由についても考察することとする。

2. 調査概要

第2節は、2.1で調査対象について、2.2で調査方法について述べる。

2.1 調査対象

本稿では、2016年11月に発行された以下に示す2冊の20代女性向けのファッション雑誌を調査対象とする。以下の雑誌は、同時期に発行された雑誌なので、時間差による文体差がない。

『steady.』宝島社 2016年11月

『MORE』集英社 2016年11月

2.2 調査方法

まず、2冊の雑誌全頁の中から、「助詞で終わる文」をすべて抽出する。『デジタル大辞泉』（2014年、小学館出版）に従えば、助詞を「格助詞」「副助詞」「係助詞」「接続助詞」「終助詞」「間投助詞」に分類することができる。そのうち、この2冊の雑誌には「間投助詞」は見られなかった。また、「終助詞で終わる文」は見られたが、今回の対象からは外すことにする。理由は二つ考えられる。まず、他の助詞とは違い、終助詞はインタビュー記事などの会話の場面で現れる場合が多い。また、「終助詞で終わる文」だけが完全文となり、他の助詞の場合はすべて不完全文となるため、終助詞を加えると文の種類が異なることになる。従って、本稿では終助詞の場合を排除し、助詞で終わる「不完全文」を対象とした。さらに、名詞と名詞をつなぐ助詞として、並列助詞「と」及び準体助詞「の」が考えられるが、本雑誌に使用されたのは並列助詞「と」のみであった。以上を踏まえ、文末に用いられた助詞を、「格助詞」「並列助詞」「副助詞」「係助詞」「接続助詞」の5つの種類に分け、

整理したうえでそれぞれの用例を挙げ、具体的にその使われ方について考察する。

3. 調査結果

2.2で述べた調査方法で、2冊の雑誌で出現した「助詞で終わる文」を分類した結果が表1で示されている。

表1 「助詞で終わる文」の出現数

助詞		出現数 (%)	合計 (%)
格助詞	に	192 (39.3)	306 (62.6)
	を	43 (8.8)	
	が	36 (7.4)	
	で	19 (3.9)	
	へ	16 (3.3)	
並列助詞	と	3 (0.6)	3 (0.6)
副助詞	まで	9 (1.8)	21 (4.3)
	だけ	5 (1.0)	
	なら	4 (0.8)	
	ばかり	3 (0.6)	
係助詞	も	49 (10.0)	87 (17.8)
	は	38 (7.8)	
接続助詞	て	60 (12.3)	72 (14.7)
	から	9 (1.8)	
	し	1 (0.2)	
	ので	1 (0.2)	
	のに	1 (0.2)	
合計 (%)		489 (100.0)	

表1を見ると、最も多いのが「格助詞で終わる文」で62.6%、次に多いのが「係助詞で終わる文」で17.8%であることが分かる。また、最も多く使われていた助詞が格助詞「に」で39.3%、次に多く使われていたのが接続助詞「て」で12.3%、三番目に多く使われていたのが係助詞「も」で10.0%であった。本稿では、出現頻度が5%以上である格助詞「が」「に」「を」、係助詞「は」「も」、接続助詞「て」の6つの助詞を取り上げ、考察を行っていく。以下、助詞の種類ごとに、出現数の多い順に分析及び考察を行う。

3.1 格助詞「に」で終わる文

本調査で収集したデータでは、格助詞「に」で終わる文は39.3%で、最も高い比率を示していた。格助詞「に」で終わる用例としては、例えば、

- ①家族旅行で初めて宮古島に！ (『MORE』p.12)
- ②砂漠女子からさよならして、濃密うるふわ肌に (『MORE』 p.158)
- ③プレイフルなハートをバッグの中の主役に (『MORE』p.93)

といった例文がある。①～③の非完全文を完全文に修正してみると、例①では「に」が移動の到着点を表しており、省略された動詞としては「(宮古島に) 行った」／泊まった」が入る。例②では「(濃密うるふわ肌) なる／なろう」、例③では「(バッグの中の主役に) する／しよう」などの動詞が入り、目的・対象などを表していると考えられる。従って、格助詞「に」は、ファッション誌においては、物体の存在する場所や移動の目標点および到達点、動作および状態の対象を示す用法が多く、述語の適用範囲が広いと考えられる。

以上を踏まえると、格助詞「に」が他の助詞と比べて頻繁に使用される理由は、次のように考えられる。まず、「変化」を主な目的としているファッション誌では、変化や移動を表す動詞と結びつく格助詞「に」が最も相応しいと言えるだろう。次に、格助詞「に」の述語の適用範囲が広いと、省略する際に幅広く使えることによると考えられる。

3.2 格助詞「を」で終わる文

次に、格助詞「を」で終わる文について分析してみる。本稿で収集したデータでは、「を」で終わる文は8.8%占めており、格助詞の中では「に」の次に多く使われていた。格助詞「を」は、動作の直接的な対象や知覚・思考活動の対象、移動時の経路を示す用法を持つ。本調査で収集した例文では、動作の直接の対象を表す用法が多い。以下のような例文がある。

- ④ゆったりニットワンピースはONもOFFも着回せる一枚を！！
(『steady.』 p.39)
- ⑤過剰なグラデで陰影を作り込まず、なじみカラーでソフトな立体感を
(『steady.』 p.102)
- ⑥今季ならボルドーとカーキ！どこかに絶対トレンド色を
(『MORE』 p.168)

格助詞「を」の後ろに省略されていると考えられる動詞は、主語から目的語に向かう動作を表す動詞、すなわち他動詞であろう。例④～⑥で省略された他動詞は、それぞれ④「(着回せる一枚を) 買う／買おう」、⑤「(ソフトな立体感を) 出す／出そう／作る／作ろう」、⑥「(トレンド色を) 入れる／入れよう」などが考えられる。また、「を！」のよう

な形式が多く現われていた。「！」を使用すると、読者に更に「積極的に○○しよう」という感じを強く与える効果があると思われる。例えば、例④であれば、「ゆったりしたニットワンピースを絶対に買おう／買わなければならない」と伝えられるだろう。

このような格助詞「を」で終わる文は、編集者の読者に対する「○○しよう」という積極的な伝達意図を巧みに隠し、読者に動作主としての読者自身を強く感じさせる効果があると考えられる。

3.3 格助詞「が」で終わる文

次に、格助詞「が」で終わる文について分析する。本稿で収集したデータでは、「が」で終わる文は7.4%占めており、格助詞の中では「を」の次に多く使われていた。格助詞「が」は、動作や状態の主体、また、要求や願望の対象を示す最も基本的な格助詞である。本稿で収集した「が」で終わる例文は、以下のようなものが挙げられる。

⑦骨盤も大きめなので、腰も太もももパツパツ感がが (『steady.』 p.26)

⑧メイクや汚れはしっかり落ちるのに肌が乾燥しないのはこんなところにも秘密が。(『MORE』 p.175)

⑨プリーツスカートの揺れ感とゴツめアウターのギャップが
(『MORE』 p.53)

格助詞「が」は、「に」のように幅広く使えるわけではなく、出現する文が限られていた。例⑦⑧⑨に省略された述語を補ってみると、⑦「(パツパツ感が) ある」、⑧「(秘密が) ある」、⑨「(ギャップが) いい／すてきだ」という完全文になると考えられる。つまり、例⑦⑧のように「主体+が+ある」のような存在文、あるいは⑨のように形容詞述語

文が想定される。以上の例から、格助詞「が」で終わる文は、状態の主体を示す機能があることが分かる。

ファッション誌では、商品に対する購買意欲を高め、商品が生み出した効果を強調するために、文の組み立てでは商品自体、つまり文の主体を強調しなければならない。従って、状態の主体を示す「が」で終わる文が最も有効だと考えられる。さらに、「が」の主体は新情報・未知情報であるため、新しい話題を提示することによって読者の興味を引きつける機能があると言える。

3.4 係助詞「も」で終わる文

係助詞「も」の例を見てみよう。係助詞の中では「も」で終わる文が最も多く、10.0%占めていた。「も」は同類の事柄を並列・列挙する意を表す係助詞である。「も」に関しては、二つの用法から考察した。一つは「も」の対比型の用法である。例えば、

⑩ビールや焼酎、ハイボールにカクテル、日本酒など幅広いお酒を取り揃えています。もちろんソフトドリンクも。 (『steady.』 p.91)

⑪ランク外には「バターしょうゆ」という男子らしい回答も。
(『MORE』 p.190)

例⑩は居酒屋の説明文である。「お酒もソフトドリンクも揃えていますよ」と説明し、「ビールや焼酎…」といったアルコール類の好きな人にとっても、ソフトドリンクを好む人にとっても盛り上がるお店であることを示しており、「ソフトドリンク」が「お酒」と対比して示されている。例⑪は、「ごはん混ぜるなら何がいちばん好き？」という質問に対する回答のランキングについて説明している。ランキング内のも

のを説明した後に「ランク外には『バターしょうゆ』という男子らしい回答も」と、「バターしょうゆ」という回答を取り上げ、ランキング内のものと対比している。

もう一つは「も」の取り立て型の用法である。例えば、

⑫大多数の人が毎年使う定番ニットを多数持っていて、長く着回していることが判明！中には20枚以上という上級者も。(『steady.』p.36)

⑬毎日のマッサージで引き締まった美尻に！なめらかな使用感も！
(『steady.』 p.107)

例⑫は「中には20枚以上という上級者も」という現在の手持ちニットの枚数を説明する中で使われていた文である。ニットを多数持っている人の中に、20枚以上持っている人を「上級者」として取り立てて説明している。例⑬は、ヒップケアを勧めているスタイリストからの商品に対するコメントである。ここでは、商品の他のメリットの中で「なめらかな使用感」を特に取り立てて説明している。

以上の例文から見ると、いずれの用法にしても、「も」は強調の役割を担っており、「も」の前の部分を何かと対比したり、「も」の前の部分を取り立てたりすることによって、読者の注目を引こうとしていると考えられるのである。

3.5 係助詞「は」で終わる文

次に、係助詞「は」で終わる文の特徴を分析してみる。本調査で収集したデータでは、「は」で終わる文は7.8%占めていた。本調査で集めた「は」で終わる文は、平叙文と疑問文の二種類に分けることができる。

はじめに、疑問文について分析する。例えば、

⑭現在の手持ちニットの枚数は？ (『steady.』 p.36)

⑮濃くなりすぎた時のリカバー方法は？ (『MORE』 p.153)

『デジタル大辞泉』(2014年、小学館出版)によると、現代の日本語では、係助詞「は」は以下の機能を持っている。まず、判断の主題を提示する意を表す機能である。次に、ある事物を他と区別して、または対比的に取り立てて示す意を表す機能である。最後に、叙述の内容、またはその一部分を強調して明示する意味を表す機能である。以上を踏まえると、例⑭⑮の「は」は、「判断の主題を提示する意を表す」機能であり、話題を提示する役割を果たしていると言える。例⑭の「手持ちニットの枚数は？」という質問には例えば「3枚」というような「ニットの枚数」を答え、例⑮の「リカバー方法は？」という質問にはその「リカバー方法」について答えることになる。読者との距離を縮めるために、あえて疑問文の形にして読者と一緒に考えるようにし、最後に答えを持ち出し、読者に共感を持たせているのである。

このような係助詞「は」で終わる文は、小見出しとして使われる場合が多い。ファッション雑誌の小見出しは簡潔さが求められるので、「は」で終わる疑問文は、読者の目を引く効果的な選択肢なのではないだろうか。

もう一つ見られるのは、「は」で終わる平叙文である。例えば、

⑯ブーツのときは… (『steady.』 p.62)

⑰パンプスのときは… (『steady.』 p.62)

この場合の「は」は、例⑯⑰のように「…」と一緒に使われることが多い。読者に対して「これから、この話題について話しますよ」と呼

び掛けているように感じられる。係助詞「は」は話題を提示する機能を持っているため、雑誌においては小見出しとしてよく使用されている。

3.6 接続助詞「て」で終わる文

最後に、接続助詞「て」で終わる文について分析する。白川（1991）によると、「て」で終わる文は日常会話においてしばしば観察されるという。白川は、接続助詞「て」の表す意味を記述するとすれば、「事情の説明」「感嘆」「陳謝」「感謝」「非難」の意を表している、と述べている。ファッション雑誌において最も多く見られるのは、「事情の説明」の用法である。例文を見てみよう。

⑱「大人なチェック」が今着たくて。 (『MORE』 p.84)

⑲新しくて女っぽい着こなしは麻里子をお手本にして… (『MORE』 p.84)

⑳世界一おいしいごはんが食べたくて (『MORE』 p.190)

例⑱～⑳の「て」の前の部分が省略された後文の「事情の説明」をしているとしても、日常会話でよく使われている「事情の説明」の「て」とは用法が違うのではないだろうか。白川（1991）によれば、日常会話でよく使われている「事情の説明」の「て」は、終助詞的な用法で、つまり言い尽くされた文として解釈されることが多いという。それに対して、ファッション雑誌で使用されている例⑱～⑳のような「て」は、むしろ「省略」だと解釈したほうが妥当であろう。なぜなら、例⑱の後には、どのような「大人なチェック」の服を着るのか、例⑲の後には、どのように「麻里子のように新しくて女っぽい着こなし」をするのか、例⑳の後には、どこで「世界一おいしいご飯」が食べられるのか、それぞ

れ説明できるからである。「て」は、省略された部分について読んで欲しいと読者に伝えるために読者の視線を引く省略用法だと考えられる。

また、同じく白川（1991）では、「て」の「事情の説明」の用法は文脈依存性が高いと説明されている。そのため、前後の文脈から切り離して単独で「て」の前の部分だけを提示すると、「事情の説明」とは解釈できなくなる。ファッション雑誌でこのような「て」がよく用いられる理由は、「て」に続く部分を読者に想像させ、あたかも読者と会話をしている雰囲気を作り出すためであると考えられる。接続助詞「て」で文を終わることによって、読者の注目を引き、続きを読んでもらおうとする機能を果たしていると言えるだろう。

4. まとめと今後の課題

今回の調査及び考察を通じて、20代女性向けのファッション雑誌における「助詞で終わる文」の特徴を以下の6点にまとめることができる。

- ①格助詞「に」で終わる文によって言いたいことを簡潔に言う。
- ②格助詞「を」で終わる文によって読者に想像空間を広げる。
- ③格助詞「が」で終わる文によって未知主体・話題を簡潔に提示する。
- ④係助詞「も」で終わる文によって話題の内容を強調する。
- ⑤係助詞「は」で終わる文によって話題を簡潔に提示する。
- ⑥接続助詞「て」で終わる文によって事情を説明し、読者の視線や興味を引く。

今回の助詞の分析には、まだ掘り下げる余地がある。例えば、今回は用例数の少ない助詞に関する説明を省略した。今後はより多くの例文集め、より詳しい分類を目指すことによって、助詞で終わる不完全文について、それぞれの機能を考察していきたい。

〔付記〕本稿は言語文化研究科2016年度「日本語教育特殊演習」における12月22日と1月9日の発表を「研究ノート」としてまとめたものである。

参考文献

- 今村一子（2002）『『は』 VS 『が』 と日本語教育』信州大学留学生センター紀要第3号, pp.45-59
- 勝田耕起（2011）「20代女性向けファッション雑誌における言語の特徴—外来語の場合—」『フェリス女学院大学文学紀要』第46号, pp.21-31, フェリス女学院大学
- 具軟和（2002）「雑誌文章の特性—若い女性向けのファッション雑誌を中心に—」『人間文化研究年報』第9号, pp.110-118, お茶の水女子大学
- 白川博之（1991）『『テ形』による言いさしの文について』広島大学日本語教育学科紀要 第1号, pp.39-48
- 丸山直子（2016）「格助詞『に』と『で』の深層格—出現状況把握に向けての問題点の整理—」『日本文学』112号, pp.175-194